

観天 望気

地域連携が未来を創る

昨今、農業を取り巻く環境はめまぐるしく変化している。担い手の減少・集約により農業の構造変化が生じているなか、国際的なエネルギー価格・資材価格の高騰や頻発する自然災害に見舞われ、社会的には脱炭素や省力化など環境に配慮した対応が求められている。

このような農業情勢のなか、まずは足元の資材価格高騰などの影響を受けた経営体や能登半島地震の被災者への金融支援に、引き続きしっかりと対応していきたいと考えている。加えて、担い手のニーズに的確に 대응し、出向く活動を通じた付加価値の高い多様なソリューション提案も続けていく必要がある、さらに今後はスマート農業や環境調和型経営に関連した資金対応も求められるだろう。また、担い手の財務基盤強化の観点では、アグリビジネス投資育成株式会社の出資機能を活用し、持続可能な農業経営に向けた支援を継続的にこなっている。

非金融面ではJAの「総合事業」という強みを生かした、担い手のコンサルティングに取り組んでいる。事業性評価により担い手の経営課題を「見える化」し、JAが有する多様な機能を提供することで、経営課題解決のサポートをおこなっている。なお、担い手の所得向上を実現するためには、生産性向上や販路開拓などの多角的な提案に加え、地域で連携して事業に取り組む必要があり、そのためには行政、地元の関係機関とも協力していく必要がある。

農業経営をめぐる情勢は徐々に複雑さを増しており、今後は温室効果ガスの削減やみどりの食料システム戦略が示すような持続可能な農業といった社会課題に近い領域に入っていくだろう。こうした課題の解決に向けて、金融機関には、適切なソリューションを提供するためのコンサル力を培い、総合力を発揮した複合的な支援をおこなうことが求められる。地域一体となって持続可能な農業の実現に貢献していきたい。



川田 淳次

農林中央金庫 常務執行役員

かわた じゅんじ

1993年農林中央金庫入庫。農林水産環境統括部副部長、JAバンク統括部副部長、経営対策部長、JAバンク統括部長などを歴任し、2021年より現職。JA・JF事業、農業水産業向け金融・地域活性化を担当している。